

天栄中だより

鈴鹿市立天栄中学校

510-0258 鈴鹿市秋永町 1839 番地
Tel 059-386-0444 Fax 059-386-0445

学力についての傾向と改善に向けての方策等

令和3年度全国学力・学習状況調査結果分析と考察について②

本年度、3年生対象に実施された「全国学力・学習状況調査」(国語・数学)の結果をお知らせします。この結果を分析し、本校生徒の「強み」「弱み」を明らかにし、今後の指導に生かしていきたいと思っております。

【各教科平均正答率の状況】

平均正答率	国語	数学
天栄中	67.0	62.0
三重県	63.0	58.0
全国	64.6	57.2



【国語の強み】

- ・本校の平均正答率は三重県および全国よりも上回っている。(全国64.6% 本校67%)
- ・全般的に無回答率が低く、記述式問題にも最後まで取り組む姿勢が見られる。
- ・学習指導要領の領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」)及び評価の観点(「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」)、問題形式(「選択式」「短答式」「記述式」)において、三重県および全国の平均正答率を上回っている。

【国語の課題】

- ・3-1『呼吸をのみこんだ』の意味として適切なものを選択する」の正答率は39.2%と全国の正答率(43.7%)や三重県の正答率(39.3%)より低い。解答類型4「発言を我慢した」の解答が42.5%あることから、文脈に即して捉えることに課題がある。また、「のみこむ」には「抑えて外へ出さないようにする」「我慢する」などの意味もあるが、ここでは「つかむ」「理解する」という意味で用いられていることが理解できていないものと考えられる。
- ・4-4「事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く」の正答率は67.3%と全国の正答率(71.9%)や三重県の正答率(69.6%)より低い。解答類型3の解答が2.6%であり、解答類型5の解答が4.6%、解答類型99の解答が15.7%であることから、「〈確認事項〉にある内容を全て含めて書くこと」や「相手に失礼のないように、適切な言葉遣いで書くこと」などの条件を精読し、かつ、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題がある。

【課題解決に向けての具体的な対応】

- ・本文読解において慣用句や語句等の意味を逐一確認させる。また、単元テストや定期テストにおいて、慣用句や語句等を使う短文作成問題を増やすことで、語彙を増やす。新学習指導要領になり、言葉をよりいっそう大切にすることから、慣用句

や語句の意味を授業内で確認させた。また、定期テストにおいては慣用句や語句等を使わせる短文作成問題を常に解かせることで、言葉や語彙を増やすことを意識させた。

・授業前に常に実施している作文の中に条件を付すことで、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことを意識させる。

また、1年生から行っている「暑中見舞い」や「年賀状」において書き方を学習だけでなく、相手に失礼のないように、適切な言葉遣いで書くことを意識させる。葉書を書かせる授業を行う中で、教科書参考資料「手紙、はがきの書き方」を活用することで理解を深めさせたい。

【数学の強み】全国及び三重県平均と比較して

○ほぼすべての問題において、全国及び三重県平均を上回っている。特に、

- ・2つの分布の傾向を比べるために、相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶこと (天 56.2 三 38.3 全 36.8) 資料の活用 (選択)
- ・四角形 ABCE が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明すること (天 60.1 三 45.6 全 44.3) 図形 (記述)
この2つの問題では、平均よりも10ポイント以上も上回った。
- ・数量の関係を一元一次方程式で表す (天 75.8 三 71.8 全 71.3) 数と式 (短答)
- ・反復横とびの記録の中央値を求める (天 90.8 三 85.4 全 84.5) 資料の活用 (短答)
- ・四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成すること (天 68.6 三 62.3 全 61.8) 数と式 (記述)

以上5つの問題ではその傾向が顕著である。

このことから、「数と式」や「図形」、「資料の活用」領域における学習が強いと考えられる。

【数学の課題】

○強みである「資料の活用」だが、記述式に関してはやや課題がある。

- ・「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する
(天 9.8 三 11.0 全 11.1) 資料の活用 (記述)

記述式の問題は全部で5問あるが、この問題だけが平均を下回り正答率も極端に低い。

【課題解決に向けての方向性と具体的な対応】

しかし、無解答の割合を見てみると、平均に比べて遥かに少ないことがわかる。そのため、度数分布多角形の基礎的な内容から振り返り、グラフをかくだけでなく複数のグラフを比較する経験を授業で取り上げていく。問題を解こうとする意欲があるので、基礎基本から丁寧に振り返り、しっかり知識の定着を図っていきたい。

国語、数学で共通している「強み」の一つが「無回答率が低い」ことです。無回答率が低い要因を考えてみると

- ① (応用) 問題を解く手がかりとなる基礎学力が備わっている。
- ② 粘り強く取り組む姿勢が身についている。

特に②については、3年生の授業を担当している他学年の先生からも「3年生は諦めずに問題等に取り組む姿が見られます」というお話を聞く機会がありました。

各教科の先生方に本校の「強み」「弱み」を分析していただきました。あなた達自身も自己分析をして自分自身の「強み」を伸ばし、「弱み」を克服することで更なる飛躍を目指してほしいと思います。